

それでは文書課長から内容について
概略の説明を願います。

林省設置法につきまして簡単に概要を御説明申上げます。便宜この條章に従いまして簡単に申上げて見たいと思います。

第一章の総則におきましては、主な規定といたしましては第三條において農林省の任務を掲げておるのであります。これが現在の農林省が農林省官制に基いて行なつております任務をそのまま、外の省と通じまする準則に従いまして或る程度やや具体的に書いたものでございます。それから第四條係に規定しておりますのは農林省の権限でございまして、これも大体現在の農林省官制によりまして、農林大臣が持つておりまするところの権限を現状よりも詳細に規定をいたしたに止まるものでございまして、一つも新らしい事項が入つておりません。

第二章は本省を規定いたしておりますの
であります。そのうち第一節に相当
いたしますところでは本省のうちの外
局を除きました内部部局に関する規定
をいたしております。第五條におきま
して内部部局の構成を大臣官房の外に
農政局、農地局、農業改良局、畜産
局、蚕糸局のこの五局を置くといふこ
とを規定いたしております。この点は
現状と大分違つております。現在は
官房の外に内局といつしまして八局あ
ります。その点につきましてはお手許
に差上げてありますところの農林省関
係官制及び分子規定、農林省法新旧対
照表という別のちょっと都厚い印刷物
がございますので、それをお開き頂き
ますと一番初めに農林省機構新旧对照

表というものが掲げてあります。これが御覽頂きますと分るのでございま
すが、現行は先程申しましたように、臣官房の外に、この上の欄の現行機構
といふところに書いてあります。ようすに、
に、総務局、農政局、開拓局、農業改
良局、統計調査局、畜産局、蚕糸局、
食品局、この八局が設けられておりま
す。そしてその内部部局の部といふた
しましては、農政局の中に農業協同組
合、農地部の二部があります。開拓局
には、庶務部、指導部、開拓計画部、
建設部の四部が置かれております。そ
れから農業改良局につきましては、經
済研究部、技術研究部、普及部の三部
が置かれております。それから畜産局
には、競馬関係のみを所掌いたします
る競馬部が置かれております。

うな個々の事務が新らしい機構にきましては全部大臣官房に吸収をさるということになりますて、從來大臣官房が扱つておりました人事でありますとか、会計でありますとか、或い法令関係でありますとか、そういうふうな個々の官房事務の他に、そういうような事務が入つて参るのであります。そこで非常に複雑な機構に実はありますわけで、そういう意味で官房を新らしく置きたいということになりましたわけであります。

それから現在農地に関する行が農政局の農地部と、開拓局の四部にそれく分割をいたしておりますがござりますが、御承知のように農地改革につきましては一段落、或る意味は一段落をしたわけであります。今後既耕地のみならず未墾地につきしても一貫的に農地行政を進めて参たいという考え方からいたしまして、農政局にありますところの農地部と開拓局を統合いたしまして、新らしく農地局といふ一局を設けたい、そして農政局で從来所掌しております事務の中でも、農地部を除きますその他ののを以て農政局とする、こういうのを新機構の案でございます。そこでいささかから申上げますると、農政局の下には農業協同組合課といいます課と、最近農業協同組合の下には御承知の通り農業協同組合課といいます課と、最近農業課と改めました課とがあるのですが、この要ありますが、これが今度の行政整理の關係で認められないということになつたわけであります。それから農地局につきましては、今も御説明申上げましたとおり、現状から行きますと、五

おれ臣またはた政改と改度農開開度農業省の当初の希望といたしましては、一應官廳を一人置くことで部制を認められないという結果になつております。それから農業改良局と統計調査局につきましては、これはそれゝ御承知のごとく、非常にまあ関係方面等の意向を反映して設けられました部局でありまするが、統計調査局が結局におきまして、農業改良局の一部に格下げになつたという結果になつたわけであります。そこでそれともう一つ、まあ内部部局の部を成るべく減らして行きたいという趣旨からいたしまして、農業改良局の現在の経済研究部を技術研究部と二つにいたしました関係上、その二つの部が農業改良局の三部とこういうことにまあ縮小をせられましたわけであります。それから畜産局につきましては、これは大体現状通りであります。畜産局につきましても大体現状通りでございます。その次に食品局でありまするが、これは御承知のように、現在主要食糧以外の食料品並びに油脂につきましての行政を総括いたしておるのをござりますが、今度の行政整理で國庫を減らすという考え方もありまして、次の外局の食糧管理局を統合いたしまして食糧廳の一部局とすると、こういうことで食品局というものを廢止したわけでございます。

しまして、五條に書きましたように、大臣官房の外に五局、そらして部といったしましては、第五條の二項に書いてありますように、農業改良局に統計調査部、研究部及び普及部を、畜産局に競馬部を置くということに相成りましたわけでございます。それから特別な職といたしましては、第六條に書いておりまするよう、先程申上げました官房長と、農地局の次長一名の規定をいたしております。それから第七條以下は大臣官房初め五局のそれゝの所掌をいたしますところの事務を具体的に規定をいたしております。

ますと一番初めに農林省機構新旧対照

したように、現状から行きますと、五

以上申上げましたような結果といった

て、各種の審議会或いは調査会、審査

会というような名目のものでござります。これもここにずっと掲げておりますが、すべて現在存しますうちどうするが、すべて現在存しますうちどうしても今後も持続をして置きたいといふものののみを嚴選をいたしまして掲げましたわけでございます。

次に四十七頁の第三節地方支分部局でございますが、本省の地方支分部局は第三十五條に規定いたしております。よう農地事務局と作物報告事務所の二つでございます。第三十六條以下に農地事務局の所掌事務とか、或いはその名称位置というようなものを規定いたしておりますが、これは御承知の現状の農地事務局をそのまま規定をいたしましたわけでございますので、変更はございません。ただ第三十八條で農地事務局に局長、官房の外に農地部、開拓部、土地改良部の三部を置く、といふ規定をいたしておりますが、これが若十現状の部局よりも数が少く、なつておる、変つておりまする点は、その程度でございます。

次に第二款といたしまして作物報告事務所を規定いたしておりますのであります。これは現在の作物報告事務所の所掌をいたしておりますが、そのまま規定をいたしておるわけでござります。これは尙念のために若干申し上げて置きますと、作物報告事務所はいわゆる統計調査局の下部機構といったしまして、御承知のような耕地面積、それから農作物の作況といふなどの調査を初めといたしまして、その他農家経済、或いは家賃費調査とかもなく他省の統計調査事務とは若干

的を異にいたしておりますて、御承知の作物の事前割当の基礎でありまするとか、或いは食糧の供出割当の基礎数字でありまするとか、或いは米價決定の際の諸資料でありますとか、そういうふうな現実の行政上非常に重要な必要を持つておりまするところの資料がすべてこの機関を通じて作られて行くという、そういう任務と仕組みになつておるわけでございます。

次に第三章に掲げておりますのが農林省の外局でございます。農林省の外局といたしましては、第四十三條に規定をいたしまするより食糧廳と林野廳と水產廳、この三つでございます。

第一節において食糧廳のことを詳細に規定をいたしております。勿論食糧廳の権限、所掌事務というものは、現在の外局でありまするところの食糧管理局が所掌をいたしておりまする事務と、先程申上げましたように食品局が現在所掌をいたしておりまする事務を附け加えまして、そうして食糧廳といふ主食のみならず、食糧全般におきまする問題をここで取扱うということに改めましたわけでございます。食糧廳の部局といったしましては、第四十六條に規定をいたしておりまするよう總務部、食糧部、食品部の三部を設置することになつておりますのであります。が、これは先程ちよつと御覽を願いました分厚い方の資料で比較を御覽願ひますと分りますように、食糧管理局は現在総務部、經理部、業務部の三部が成っております。それに食品局で從來やつておりますところが更に附加つて参りまするわけで、当初農林省といたしましてはこの食糧管理局の現在の三部に加えまして食品局を食品部と

いたしまして四部を希望いたしましたけれども、整理という観点からいたしまして食糧廳においては一部を縮小する、こういう方針に相成りましたので、現在の食糧管理局の総務部、経理部、部といふものを結合合併いたしまして、新らしい機構においては総務部と名付けると、こういうことに決定を見ましたわけでございます。そこで総務部の事務は現在の經理部をも合せてやるといふことが変りましただけであつまして、それ以外の事部につきましては以上申上げた通りでございます。それから五十五頁の第三款に食糧廳の附属機関の規定をいたしております。これは食糧研究所と食糧管理講習所でございまして、食糧研究所は、現状通りのやつておりますことを規定いたしておりますのでございますが、食糧管理講習所は從来こういうふうなれつきとした規定がなかつたのでござりますけれども、御承知のこういうふうな重要な仕事に従つておりまする職員の資質を高めて行くという観点から、こういうものを置きたいということになりましたわけでございます。

それから第四款の方地支分部局は、食糧廳の支分部局といたしまして食糧事務所の規定をいたしております。食糧事務所は御説明するまでもなく、十分御承知を願つておりまする仕事をいたしておりますのでありますて、ここで申上げる必要もないと思います。

次は五十九頁に参りまして林野廳でございますが、第二節において林野廳の規定をいたしております。ここでは第五十九條で林政部、指導部、義務部という三部を置くことについたしまして、以下その事務の内容を規定いたし

ておりますが、現在の林野局の部制とは、現在は國有林野と民有林野とうのが機構上において厳格に区別をされておるのであります。が、今度の案におきましては成るべくその点につきまして、そういうふな國有林偏重として、ことのないようになりたいという趣旨と、もう一つは農業の分野におきまして、農業改良局がやつておりまするような、あいつたような試験、研究の整理、統合、その有機的な運用によりまして、それを行政の面に活かして行きたいという思想。これがやはり今度新らしく設けました指導部の中にも、そういう思想を取り入れて、山林の面におきましてもややそういう活動がしたいという気持と、この二つからいたしまして編成替えをいたしました。だけでありまして、所掌事務といたしましては現状と大差がないのでございます。それから第三款に林野廳の附屬機關として、林業試驗場の規定をいたしております。それから第六十四條で各種の審査会、審議会といふものを規定いたしておりますが、これはいずれも現状をそのまま規定をいたしたわけでございます。それから第四款におきまして林野廳の地方支分部局といつまして、營林局、造林署、木炭事務所、この三つを規定いたしておりますが、これはいずれも現在の機関でござります。それから七十五條で森林資源

所管の公園の規定をいたしております。これは現状でありまして、この五公園をどういふうに整理、統合するかという問題は、別に本國会におきまして御審議を願うことになつておりますので、そちらに譲つておるわけござります。以上が農林省設置法案の規定をいたしました内容の、大体あらましだございます。

それからもう一つの方の農林省設置法の施行に伴う関係法令の整理に関する法律案の方につきましては、これは主として水産関係の問題でござりますが、この第一條は、從来漁網網の所管は御承知の通り商工省にあつたのであります。が、今度商工大臣と農林大臣の話合によりまして、漁網網の生産を農林省の所管に移して頂くということに話合が纏まりましたので、そこで農林省に漁網網の生産所管が移るようないく趣旨の規定であります。第二條の「水産廳に次長一人を置く。」といふのは、現在もございますが、これは水產廳の設置法に伴います施行令で規定をいたしておりますが、今度の組織法によりましてこりうものはすべて法律の規定を要することに相成りましたので、政令を法律の規定に改めたといふに過ぎないのであります。それがら水產廳の附屬機關を次の第七條の二に挙げてありますように水產研究所、日光養魚場、水產講習所というふうに改めておりますが、その次に規定をいたしております水產研究所、これがやはり先程農業改良局なり或いは林野廳の際に申上げましたよな水產の試験研究というものを、直接行政の役に役立たしめたい、そうして変更をいたいというので詳細に規定をいたしました。

す。尙私から代表して申上げますが、申し渡れをしておることがござりますれば、後程又他の農林委員の方からも御説明があることと存じます。

大体農林委員会として達した結論は、機構の問題と定員の問題があります。定員法はまだこの委員会でも内閣委員会におかれても御審議に相成つておらんようでありますから、抽象的のこととに亘りますので、これは後程申上げたいと思います。最初に機構の問題につきまして、私共は大体三つの点においてこの法律案を修正いたしたい、こういうような結論に達したのであります。いずれ又詳細に書き物にいたしますとして内閣委員長のお手許に差上げたいと存しておりますが、本日は口頭を以てその概略の結論を御報告いたしました。

最初の問題は農政局に協同組合部を從来通り設置するということであります。その理由を簡単に申上げます。御承知のように農地改革によりまして、農村の民主化といいますか、或いは経営の改善と申しますか、生産の維持擴充と申しますか、今後の農業經營の改善の基盤が先ず農地改革によつて荒削りながら基礎付けができたのであります。が、その基盤の上に立つて、今申しますように今後の新らしい農業なり、農村を美しくて参ります上においては、協同組合の活動ということが非常に重要なつて参るのであります。従つてそういう意味からいたしまして、関係方面からの希望もあり、又内地の從來の官も亦民の方におきましても、強い政局に設置され、その下に協同組合の本来の仕事、そして又協同組合と密

接不可分であり、將來の農村建設のために特に必要な農村工業の仕事がこのとになったのであります。特に最近の農村の実情を考えて見ますと、私共これは言葉は適當でないかも知りませんが、農村は今日においてこの恐慌態勢を開き又防衛するにあらざれば經濟自立も勿論のこと、農村自体は正に崩壊しつつある現状からいたしまして、どうしてもこの協同組合を中心とした防衛態勢の確立をやつて行かなければならん、こういふことを確信いたしておる際に、その専門の部がなくなり、そうして非常に忙しい農政局長が他の所掌事務と同様のウエイトを持ち、或いは又その片手間にやられるようになりますれば、協同組合運動又延いて農村の防衛といふものは非常に危い、狀況に陥ることを深く憂うるのであります。この意味から從来同様に協同組合部を農政局に設置いたしました。そのためにこの設置法案を修正いたしたい、こういふ結論に達したのであります。

に規定してありますように、この設置法はその所掌事務を能率的に遂行するに足る組織を定めることを以て目的といたしているのであります。従つて現在の五部十六課に相当する事務量が一つの局に統合されて、そうして眞にこの法律の第一條に狙つてゐるような能率的遂行するに足る組織として、これを施行し得るや否やということになりますと、誠にその点においては危惧の念なきを得ないのであります。これは顧みて他を申すようではありますが、ここに水害委員長もお見得になつておりますが、外局である林野廳、或いは食糧廳、水產廳、こういうようなところはそれゞゝ部制が設けられておるのあります。今日は御承知のように内局と外局との分化と申しますか、内局と外局を分ける基準といふものが昔のよう、例えば特別会計であるとかあるいはその外の理由といふようなものがあります。たゞ仕事の便宜のために外局と内局が設けられておるというようなことはそういう点ははつきりいたしておりません。たゞ仕事の便益のために外局と内局が設けられておるといふような感が深いのであります。従つて今申しますように、外局における水產廳は長官の下に次長があり、そして又その下に三部がある。こういうものとの比較でも仕事の分量から申しますと、現在我の外局の仕事の分量と新らしい農地局の仕事の分量から申しますと、殆んど問題にならん程の多量の事務分量を農地局は擁しております。一般の農地のいわゆる農政の根本である農地行政、そうして又増産に必要な土地改良の仕事、又新らしい農地の造成に関する仕事、こういうように非常に大きな仕事を現在十六課で取扱つておる

のであります。原案によりますと、一部制を設けない代りに次長を設けるといふ案になつておりますが、実は次長といふのは総括的の仕事として殆んど長官と局長と重複するような役目であります、まして、従つてこの第一條に書いてあるような能率的に事務を運営していくという建前からいたしますと、むしろ原案の次長制度を廃めて、部制で少くとも三部程度のものを設くることが眞に能率的にやつて行けるやうなではないか、こういうような結論に達しましたので、この農地局に対しましては、三部を設けたい、こういうことであります。

それからもう一つは今の出先機関の問題に關連しての点であります、農林委員会といたしまして達しました結論は、すべての方の完全な意見の一一致を見まして、資材調整事務所を廃しておきたい、こういふことであります。この問題につきましては、詳しく申上げるまでもなく、この内閣の委員会においておかれましても、一般社説を聞いたことがあります、いろいろ事情を御體取らなければならぬたと思いますので、詳しいことは省略いたします。ただこの際に申上げて置きたいことは、一部の仕事は府県廳に行き、特に移管の困難な仕事は農林省に存置して、これを食糧事務所に置いて取扱わせるということでありました。全体的に見まして仕事自体は必要なものは残るのであります。而もその一部が食糧事務所に行くということになりました。これは後程も申上げますが、現在食糧の管理行政だけで精一杯だと考へておるのであります。従つてそこにこの資材調整の非常に困難な、又難な仕事が入り込むということは、そ

旨を以ちまして、その結果取組めた意見を申上げて見たいと思うのであります。本来の仕事、そうして又協同組合と政局に設置され、その下に協同組合の

大な仕事を現在十六課で取扱つておる

難な仕事が入り込むということは、そ

れ自体において食糧管理行政にも重大な影響を持つものだと考えております。それから本來この仕事を存置するということは、今申しましたように公聽会でお聞き取りになつたことと想いまするが、苟くも資材の需給調整という問題は申上げるまでもなく國家的の観点に立つて、少い物を如何に公平に分配するかということであり、これは地方的の問題として取扱うことには、そのこと自体が非常に不適当であるばかりでなく、やもいたしますと、地方のボス勢力によつてこれが曲げられるということを非常に恐れるのであります。こういうことを申上げていいかどうか分りませんが、純然たる民間世論として聴取しました資材調整事務所の存廃問題については、殆んど大半の人々がこれについての存置を要望しております、特に中小の企業者、又零細な農民、從來は殆んど問題にされなかつたような人々が、非常にこの存置を要望しておるのです。このことは私が今申上げました点と照し合をしてお考え頂きますと、如何にこれが地方廳の組織としては不適当であるかといふことの一つの証拠にもなるかと思うのであります。随分たゞ一通の文書で、又折角流で資材調整事務所を設立するというような文章が出て来ておるのであります、これらも今申しまして本当にこれでこそ國家の機関であります。従つて結論いたしましては、資材調整事務所は是非存置いたしたいと想ひます。

討を要することとしたしまして、設置法の第二十條におきまして「農事改良実驗所」というものがありまして、これはそれより地方的に特殊な品種改良あります。これは從來の機構をそのまま踏襲しておるのであります。特別の機構が設けられておるのであります。これは從來の機構をそのまま踏襲しておるのであります。そういうような特殊な改良、実驗、試験をやる場合に、神奈川と徳島と長崎県だけが從來もないであります。この三つの縣については同様にこれを存置して、一般の地方的の特定の品種についての改良を助長して行くといふことの必要性があるのではないか、というような意見もございましたことをこの際併せて附けて置きます。

それからもう一つは、三十七條であります。農事事務局の管轄区域につきまして、この四十八ページで御覽願いますように、北海道所掌事務というものがどこにもないであります。これは從来地方自治体たる北海道廳に國から全額補助の形式を以て仕事を委託しておりますが、これは新らしい地方自治法、そういう從來の形式のものが認められるのかどうかという点について、多少の疑問を持つておるのであります。しかし、そのいきなりなことをかりいたしたいという意見のあります。即ち機構の問題につきまして、第一に、この際併せて附けて置きます。それから農地局においてこの設置法における大長制を止め、三部制を設けること、農政局に協同組合部を存置すること、

を存置すること、この三点が結論だと言います。それから先程申しました定員の問題であります。が、いずれ又定員につきましては詳細に御審議をせられることと存しますが、私共は全般的に行政整理をやられるということについての異存はないのであります。が、ただその行政整理は機械的であつてはならない、肝腎な仕事がそのために駄目になり、その結果被害は一般の農民又一般の國民大衆が受けたといふようなことを非常に恐れるのであります。その点から定員法の問題について検討いたしました結果、達しました結論は、食糧事務所の整理は止めて貰いたい。傳えた聞きますところによりますと、食糧管理行政の部面においては、本省の食糧管理局、今回の案で行きますと食糧局は、三割の節約になる、それから食糧事務所は二割の整理をする。こうしたことではあります。が、特に私共問題にいたしておりますのは食糧事務所であります。御承知のように食糧事務所は供出關係において、或いは又その供出の基礎にならるいろいろの割当事務において、更に供出せられた場合の代金の支拂において最も適正であり、又迅速であり、完璧でなければならんわけであつて、これが運営がうまく行きませんと、結局迷惑するのは一般の農民であるわけであります。特に農業会が解散せらざしてから以降、新らしい集荷制度というものが關係方面から指示されまして、それに基いて直接農民に対し代金を支拂つて行くこの事務は、すべて食糧事務所の末端まで各町村にあるせい、一人乃至二人の食糧事務所の職員が、この事務に当つてお

非常に輻輳しているために、その協力が機関としての農民、或いは又協同組合の方から相当の協力を求められておるような次第で、本來これは國家がやるべきことであるから、むしろ現在の職員を殖やして貰いたい。そりしなければ結局農民が非常に迷惑を蒙るということをかねて訴えておるのが現状であります。にも拘わらずこの際食糧事務所の職員を二割切る、大体全國で六千人以上の人間が整理されることになりますが、こうなりますと、現在農村で、一ヶ村に例えれば一人おるといふ所は、二ヶ村を一人が受持つということになる。そこに現われるとこらのもののは結局代金の支拂事務の遅延、或いは検査事務の粗漏、検定事務の粗漏だけ申しましても三等のものを二等にするというだけで、この全体の行政整理を吹飛ばしてしまうような國家的の損失も、財政的には起るのであります。その外交新らしく今年三月に指令をされました配給制度の完璧強化に関する司令部からの指令、これを実行して行く上におきましても、食糧管理行政はますます強化を要求されこそすれ、それを等閑に付し得ない表情であります。而も繰返して申しますように、それを整理された人間で無理にやつて行くことをことになれば、結局被害者は農民であり又消費者であるということで、これは到底私共の堪え得ないところと存するのであります。従つて、特に画一的でないようすに食糧事務所は或いは

は食糧事務所の定員を整理するといふことは絶対に反対である。こういう結論に達したのであります。先程申上げましたように、いずれ詳細は書物にいたしまして内閣委員長のお手許に差上げたいと思いますが、差当り皆さんにこの機会に申上げたいのは以上の点であります。

○委員外議員(木下辰輔君) この委員会におきまして農林省設置法案を御審議になります關係上、私共に非常に關係のあります水産廳問題のことについて、極く簡単に水産委員会におきます。この決定事項並びにその間の経緯を申上げまして、内閣委員会諸公の御参考に供し、並びに農林大臣に御意見をお聞きしたいと思います。

水産廳は第二國会におきまして協賛されましてでき上つたのであります。その際農林大臣は委員会においても本会議においても、この水産廳設置は水産省設置の前提であるということを申されました。近いうちに水産省に昇格するのであるということを再々言明されました。とき恰も現内閣におきましては人員の整理をされておる。こういう場合に出来しまして誠に水産委員会としては申しにくいことではありますけれども、この問題は長い間の懸案であります。曾て衆議院におきまして決議案並びに建議案として、この水産省設置が溝場一致を以て議決されたことが教訓があるのであります。その他斯界並びに國民一般の世論もそこにあるとかのように思ひます。森農林大臣の御盡力によりまして水産廳は段々拡大強化いたしました。魚類の生産管

試錄第一号 昭和十四年五月十二日

の今田までどこの参りあしたことを申いたしております進行中であります

小さい家畜にいたしま

かく、思方其定の、黒崎同用右

あります。でありますから農業協同組

るのであります。併し資材調整事務所

における水産廳においてこれだけ、林

うのであります。

と、私は從來の経験からいたしまして、

合組織以外の者に対して農政を行つて行くという部門は甚だ少いのであります。それで農政局の行う農政行政は、即ち協同組合を相手方としての行政でなければならん。かように考えておりますので、ここに殊更に農業協同組合部というものを設けますことは、この農業行政を統一する上において決して

の取扱い物資はできるだけ整理いたしまして、これを地方廳に譲つてもいい。ものは地方廳に委任をして、そちらで止むを得ないものだけは資材理整事務として、食糧事務所にこれを併置する。現在の食糧事務所の職員にこれをやらすのでなくして、資材を取扱うところの人間と仕事をこの食糧事務所の

野藤においてこれだけ、食糧廳においてこれだけといふように、各外局の廳別に定員が定まつたのであります。これは補見委員長も御承知下さると思いまが、これは農林省といふ全般的の定員法でありまするならば、業務の簡素化、緩急、繁簡の情勢によりまして、相互間の融通が利くのでありまする。

尙、水産省設置問題については、下委員長より強き御希望がありましたが、今日の内容は、先程申しましたツカーサーラインのために縮小され行く水産廳が、外局としての存在が何を要ないのではないかというような意見もありました矢先であります、私はこの水産廳の日本における重大性をよく

到底解決はできないと思うのであります。國会が三日掛かつてやつと解決できたことは、恐らく農政局の一課長の所では、半年以上掛かつたのが從來の実例であります。従つて私は農政の基本は農業協同組合に置いて行くといふことについては、何ら不同意でもありませんし全く同感であります。が、特

よい結果ではない。むしろこれは農政局全体の方針が、農業協同組合というものを相手方として行くんだと、こういふ氣持で行つた方が却つて徹底した農政行政ができるのではないか、かような考えを以ちまして、この協同組合部を置けといふ相当の御意見もあつたのであります。

中に設ける。こういう考え方で漸次これは整理して行きたいと、かように考えているわけであります。

尙この間連合軍から指令がありました幽靈人口の調査、そうして食糧の配給の強化等についての先方の指令に對しては、これは目下のところ食糧事務所の取扱う仕事であります。これは今日でさえ足らないところに更にこう

が、そういうふうに外局を二つはつきりし本省と分離されての定員法ができるため、これは各省とも同じことになりますが、この間の融通性が欠けておることを非常に不便に感じておるのであります。併し御承知の作報事務のごときは、現在の定員に定められましても出血を見ないであります。でこういうような作報事務所のごときものば、今後食糧事務所と陳を一つこし

痛感いたしておりますので、今後ある
ゆる機会におきまして、御希望のよ
な点に向つて努力を進めて行きたい
かようと考えておるわけであります。
○緑見義男君 農林大臣からこの提案
せらるるに至りました原案の作成につ
いての経緯を伺つたのですが、
私はこの機会に農林大臣の認識を改め
て頂きたいと思うのであります。そな
れでございまして、本日の問題があつ

にこの協同組合について今後は税の問題その他のいろいろの問題が出て参るうと思うのであります、素材の面においても同様であります。従つてこれを専門的にやつて行く責任ある部制の下における活動を期待したい、こういうのであります。これはもう少し農林大臣をおやりになるとよくその事情がお分りになると思います。

いたしたのでせりますが、資材調整事務所を全部廢止して地方廳に委譲せよといふ御意見も相当あり、又我が政府の考え方におきましても、統制を殆んど撤廃する上においてもこういふものも要らんのでありますから、是非統制の内容を簡素化してできるだけこういふような出光官憲を廢止したい。こういう原則に立づておりますが、今日御承知の通り、農村に渡す資材のどうしても統制を止めることはできない、今仰せのように少くして希望者が多いと云ふ物には、公正な妥当な配給をする管することは事実においてできない。以下、統制といふことが必要でありますので、これを直ちに全部地方廳に移管することは事実においてできない。できないのみならずこれを希望される上においては、今お話になつたように或いは思はざる勢力の下にこれが支配されやしないかといふような心配もあ

て、これはこの施設を充実するについては、特別な処置を以て機構を改めて増加して行きたいとかのように考えておるわけあります。今回の人員整理につきましては、後程御審議下さることと思いますが、食糧事務所であるとかこの最も重要な情勢をよく承知いたしておりますので、できるだけこの整理をせないようにないたしたい。そうして仕事の第一簡素化であります。殊に今日まで下らん仕事を先官意に行わしめているという弊害を認めておりますので、できるだけこの詰らん統計調査というようなものを全面的に作報の方へ移しまして、そうしてこの食糧事務所が本当に食糧の事務に専念するようにないたしたいと考えておるのであります。

て仕事をするということが、今後考えて行かれるのでありまするから、お互にこの木炭事務所なり或いは作報事務所なり、それから残つてゐる食糧、資材の責任者なりが、相互融通性を持ちまして現地においてはお互に助け合つて、末端の事務の円滑なる運行を図つて行く、というふうに考えて頂きたくと思うのであります。殊に農地局の外局たる地方農地局は依然としてこれを廃止いたしません。これは一層その事務の簡素化と共に強化を図つて行きたい、かように考えておる局けでありまするから、原案に提出いたしましたこの機構において、決して行政に不都合がない、この確信を私は持つておるわけであります。どうぞ一つ農林委員長におかれましても、更にこの氣持を御検討を加えられまして、是非原案のよう御決議をお願いいたしたいと思

が、例えば農業協同組合の部を設けること、常識的であります。しかし、このことに対する御意見も承聽いたしましたのであります。たゞ、例えは農業協同組合が織維製品、衣料品の取扱について主導権を握る場合、常に差別的待遇を受けている、この問題は、一つの極めて些細な事柄を、私共の農林委員会で解決するに三日も要しない、よりな事例があります。最高機関である國会がその打開に三日も要するような状態でありまして、況んやこれが農政局の一つの課で……課もないようだから、あります。どこかに入つて、それを局長自身は一般の農政から資材、肥料、農産、それから災害保険、農村工業、こういういろいろの、一つの事柄でも相当大きな事項ばかりあります。たゞ、こういう事柄を抱えておつて、そうしてこの協同組合の趣旨をなこういうような一つの事柄でも実行ができるかどうかということになります。

が、これも大臣自身よくお考え頂きますと分るのであります。大臣が仮に局長を抜きにして百数つの中課長と直接いろいろ、総合的にやることをお考えになるとしたならば、仕事ができるかどうかということを、これは單に御想像になるだけでもお分かりになることと思うのであります。総合調整の問題は結局、それべの部局において荒削りに調整をし、その結果を上の所で調整するということにおいて、初めて総合調整の意味があるのであります。先程開拓部のことについてのお話がありましたが、これはおつしやるよろに農地に関する部局を一つの局にして、そろそろしてその中で状況を開拓部だけを譲けるというになりますと、これは御心配になるようなことがあると思ひます。又從來の開拓の過過ぎの事例のありますことをよく承知しておりますが、

或いは思わざる勢力の下にこれが支配されやしないかといふような心配もあ

ここに一つ困つたことは、今回の定員法が、本省においてこれだけ、外局

御検討を加えられまして、是非原案の
ように御決議をお願いいたしたいと思

なこういうよくな一つの事柄でも実行できるかどうかということになります

す。又從來の開拓の行過ぎの事例のあつたこともよく承知しておりますが、

そういう情勢の下において、農地局の中で特に開拓という部だけを設けては、そういうような懸念があると思います。協同組合部におきましては、後一本筋でやつて貰わなければ、農事はへ戻りますが、むしろそういうふうな一本筋でやつて貰わなければ、農事はだめになり農村はだめになるから、特に協同組合の部を設けて貰いたいといふのであります。開拓部はおつしやる通りだと思います。従つて私共の主張いたしますのは、農地局のうちで特に一つの開拓部を設けるということではなくて、農地行政の建設面、管理面、或いは計画面、こういうような面において、それべくの荒削りをなし得る所を設け、尙現在の十六課の仕事をそういうもので一應荒削りするには、局長が統轄して行く、丁度大臣が各局長を通じて農林省全体の極めて複雑な仕事を統轄して行くよう持つて行きたい、こういう趣旨であるのであります。從つて先程農林大臣のおつしやつたことについては私共は同意することができないのであります。農林大臣自身におかれましても、尙よく御検討を頂きたいと思うのであります。

○農業課(河井彌八君) ちよつと農林委員長に申上げますが、衆議院からたびび農林大臣に催促が来ましたから、今退席されますから……。それは時間が来ましたから、これで散会いたします。

午前十一時五十九分散会
出席者は左の通り。

内閣委員
委員長 理事
中川 幸平君 河井 彌八君
カニエ 邦彦君

委員

河崎 ナツ君
城 喬臣君佐々木鹿藏君
岩本 月洲君

三好 始君

藤野 繁雄君
石川 雄吉君橋見 勇男君
星 一君大畠豊夫君
門田 定藏君

北村 一君

赤澤 與仁君
加賀 模君徳川 宗敬君
山崎 恒君板野 勝次君
國井 淳一君岡村文四
細田茂三郎君

委員

農林委員
委員長

理事

參議院